

$$\eta_0(x, t) = \sum_{l=1, 3, 5, \dots} \frac{4 \tanh \frac{i\pi h}{l} \sin \frac{i\pi}{2}}{i\pi} \sin \frac{i\pi x}{l} \int_0^{\infty} \frac{\xi_0(\omega) \omega^2}{1 - \frac{\omega^2}{\sigma_l^2}} \sin \omega t d\omega$$

(本間 仁抄譯)

Cincinnati 新停車場

(E.N.R. April 22, 1933)

Cincinnati 市に入つて居る Baltimore & Ohio; Cleveland, Cincinnati, Chicago & St. Louis; Pennsylvania; Louisville & Nashville; Chesapeake & Ohio; Southern; Norfolk & Western の 7 鐵道の合同停車場が約 3 年半の日子と 41 000 000 弗の金を費して完成し 4 月 1 日から開業したが、この新駅は種々の點に於て特長を有して居るからとゞにその概略を抜萃する事にした。

Cincinnati 市に於ける 1928 年度の鐵道乗降客は 1 日 17 000 人乃至 20 000 人であつて列車 108 往復、1 100 の車輛によつて處理されたことになつて居る。この市は Baltimore & Ohio 鐵道を除いた他の 6 鐵道には終端驛となつて居るので直通廢臺車の交替を必要とし、その數 1 日 50~60 輛にも達した。このため停車場が從來通り散在して居る事は非常に不便であるので以前から合同停車場實現の議があつたが、種々困難な事情に阻まれて延び延びになつて居たのである。然るに今回遂に都心の西方約 1½ 哩の Mill Creek Valley に敷地を選び約 5 500 000 立方碼の盛土をし新驛が出来上つたのである。新驛は貫通式 (through type) で 2 層式とし本屋床面は軌道面の上方に置きこゝに種々の設備をした。

先づ本屋は線路の東方に位して市に面しその正面は重厚な石工拱よりなり垂直の窓仕切のある半圓形の窓を有し、その兩側は厚き壁柱によつて強調されこの壁柱に接しては更に低き弧形アーケードあり前方に突出して居る。この拱形正面の裏には半圓形の平面を有し半穹窿を有する大廣間 (concourse) あり、その大いさ間口 176 呎、奥行 125 呎、高さ 106 呎でこの廣い半圓形床面には案内亭があるのみで他には何等の邪魔物がない、而してこの廣間の北側には 18 の出札窓あり、南側にはソーダ・ファウンテン、電信臺、藥種屋、食堂への入口等がある。前面には中央に間口 45 呎、奥行 22 呎の玄關の他に 4 箇の店と旅行案内所とあり、更に北側玄關の東隣には喫茶室南側玄關の東隣には小さい活動寫眞館がある。廣間に續いて手荷物廣間 (checking lobby) あり、その南側は一時預室、婦人待合室、電話室、旅行相談所、食堂、臺所等あり。北側は手荷物室、靴磨所、理髮室、新聞室及び終端驛會社事務室に宛てられて居るが、尙この上部 2 層を事務所の残りの部分に充てゝある。尙この廣間の東端には二階造りの信號塔がある。この廣間の次には列車廣間あり、幅 78 呎 8 吋、長さ 410 呎、拱頂の高さ 36 呎 8½ 吋の欠圓拱の天井を有し兩側に各 8 つの戸があり。これより階段又は斜路を降りて乗降場に至る。

弧形アーケードの中は 3 條に區分され、タクシー、乗合自動車、電車を通ずる如くなつて居るが、これらの通路はアーケード入口より内部に入るに従ひて漸次降下し、大廣間の下を潜り抜けて反對側に通じて居る。従つて車は北側より入り大廣間の下を通り抜け南側より出でる、これ等 3 條の車道を挟んで歩道が設けられアーケードの外にては乗客の乗降に便なる高さがあり、内部に至るに従ひ漸次上昇して南北玄關の處で大廣間の床と同じ高さになつて居る。歩行の旅客並びに自家用自動車による旅客は東側の玄關を出入する。

停車場外面の建築的取扱は新しくはあるが保守的である。東側正面は花崗岩の布石の上にインディアナ石灰石を用ひて居るが、装飾としては 2 本の幅廣き壁柱の浮彫と時計があるのみである。時計はその面の直径 16 呎、針はアルミニウム製で夜はネオン燈で照される。窓框、戸等にはすべてアルミニウムを用ひ支關の庇も亦アルミニウムと硝子とより出來て居る、然し正面の引立ちて見ゆるのは取付の廣場があるからで、この廣場の兩側には廣い車道がありその間には生垣のある芝生によつて占められ、本屋のすぐ前には噴泉と瀧とをあしらひ、その兩側には細長い塔柱が四つづゝ配置されその中に溢光 (flood light) が隠してある

停車場内部は形及びディテールの扱ひの簡單なのにひきかへ色彩は頗る豊富でこれは日中の天然光線、夜の人工光線によつて強調されて居る。床面のテラゾ部分でさへ眞鍮棒を界として種々の色に區分されて居る。大廣間と列車廣間にあつては壁面に着色セメント漆喰を素地とする硝子モザイクで壁畫を畫き交通の歴史や Cincinnati の歴史或はその附近の工業等を現して居る。光線は日中は廣く設けられた窓から充分入つて來るが、夜の照明には特に意を用ひてある。大廣間の照明は原則として間接であつて、溢光 (flood light) は縁形や棧の影に隠されてある。装飾用照明にはアルミニウムとコルニング硝子とで作つた簡素でも特色のある意匠の燈具を使つて居る。燈具のみならず出札所の框、戸、標識、陳列窓など悉くアルミニウムを使つて居るのが、こゝの特色の一つである。尙待合室の椅子も從來の合衆國での型を破り木造とせずアルミニウムの骨格に American Oak Leather 會社製の鞣皮を張つたものとした。

手荷物扱所は地階にあり、その西側は一段低くして荷物運搬車の發着場に宛てられその東側は外部よりの自動車の發着場となつて居る。而してこの手荷物運搬車發着場の一隅より廊下が北に延び約 250 呎のところを線路を横斷する幅 20 呎、高さ 9 呎の地下道に連り、この地下道は旅客乗降用斜路の直下に設けられた斜路によつて更に乗降場と連絡し手荷物運搬車の往來に便して居る。廊下は地下道との交點より更に北に 1200 呎延び郵便物扱室及び小荷物扱室に至つて居る。尙この手荷物扱室に於ても外部よりの自動車の環狀運轉が可能なる様になつて居る。

郵便物扱所及び小荷物扱所は構内の東方本屋の北方にある。

構内には有效長 1580 呎 (將來 2400 呎に延長出來る) の乗降場 7 本と乗降線 14 本と廻轉線 1 本とあり、將來尙擴張の餘地がある。特に注意すべきは乗降場の幅を變じて乗降線の間に留置線を設けてあることである。それは旅客乗降用斜路の側面と乗降場の縁端との間に手荷物運搬車 2 輛分の餘裕を有せしむることとしたため乗降場の幅員は 28 呎となつたが、これは他の部分では廣すぎるので乗降場の末端に行くに従ひこれを狭くして 15 呎とし兩端に短い線路一本宛を挿入したのである。而してこの線路は外方は喉線 (throat track) に連つて居るのみならず内方の端と中間の點で兩側の乗降線と連結して居るから、喉線を支障せずに車輛を解放し留置し連結するのに好都合である。従つて本驛の如く連結替を要する直通廢塞車の多いところでは甚だ便利である。乗降場はコンクリート舗装でその上家は支柱を中央に一本置く型であるが、その柱の間隔 80 呎と云ふ異常な設計になるものである。尙この外給水、給氣並に蒸氣供給設備、蓄電用回路設備等がある。軌條は本線 130 封度 R.E 型、側線 105 封度、分岐はすべて 10 番で客車仕立場、郵便物扱線、小荷物扱線では 9 番である。軌道總延長 45 哩、双叉轉轍器 43、菱形交叉 5、分岐 262 である。

聯動裝置は Union Switch & Signal 會社製の電空式で列車廣間の屋上にある一室に備付けられて居るがこの室は特に防音に留意し床面は厚きコルクリノリウムを敷き天井と壁の上部 3 呎だけはセロテックスで蔽つてある。信號は色燈式であるが 4 種の信號現示をなす様になつて居るのが變つて居る。即ち

色	現示	A.R.A. 規則
赤の上部に赤	停止	292
黄の上部に赤	制限	292
赤の上部に黄	接近	285
赤の上部に緑	安全	281

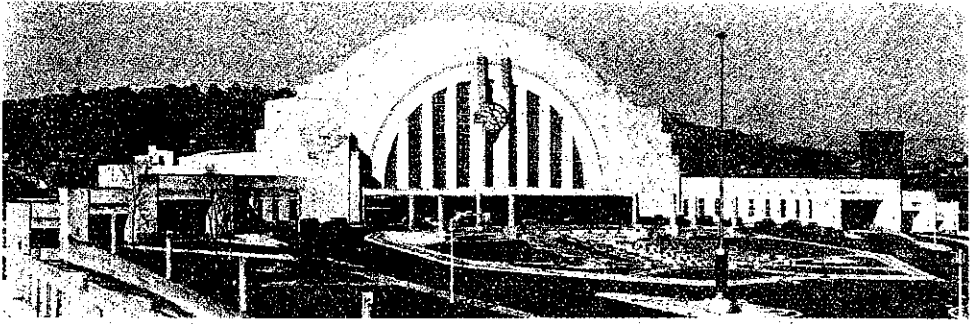
機関庫は 20 に間仕切られた圓家、洗滌場、灰坑 3、3 つの點火場、給炭場、屋外の 17 本の放射狀軌道等からなつて居るが圓家の照明には特に注意してある。機関庫の屋内軌道の 20 本と屋外軌道の 10 本は direct steaming system により汽罐に再び湯を満たし再び蒸氣を立たす装置がしてある。

客車仕立場には 26 本の線路があり、その中心間隔は 14 呎と 18 呎と交互になり線路間はコンクリートで鋪装してある。線路有效長は 1300 呎で、仕立場に必要なる水、空氣、蒸氣、蓄電用電氣等は適宜に配置してある。

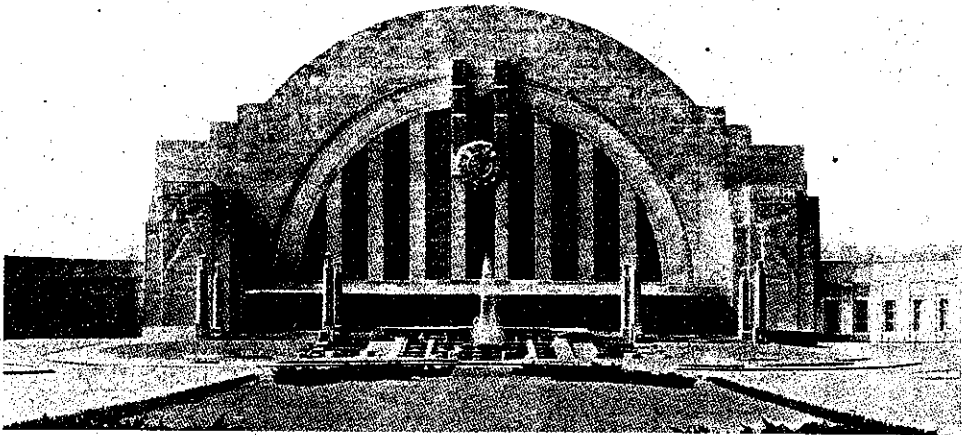
上述の外に終端驛としては必要な種々の補助的設備たる動力室、變電所、給水處理場などがある。

(大石 重成抄譯)

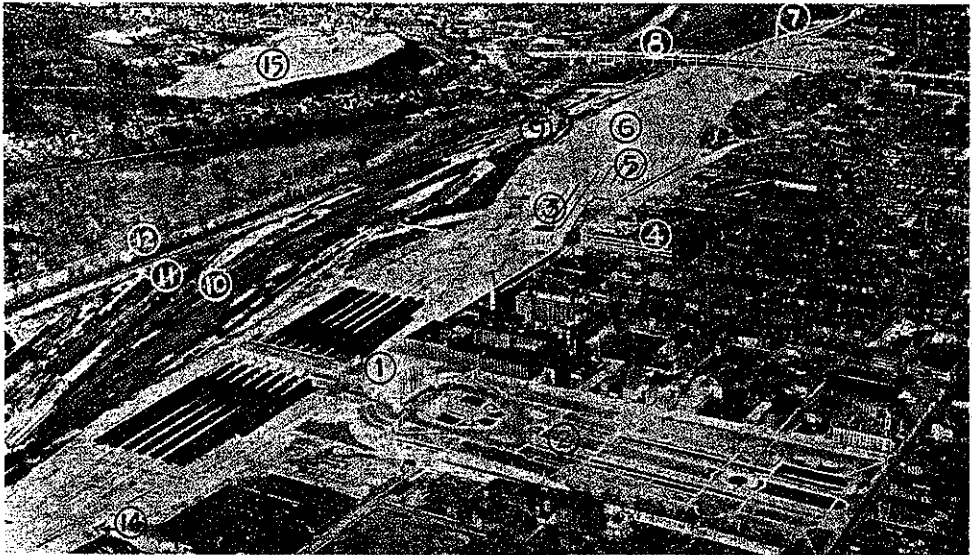
寫眞第一 新停車場の東前面



寫眞第二 新停車場本屋前廣場の噴泉

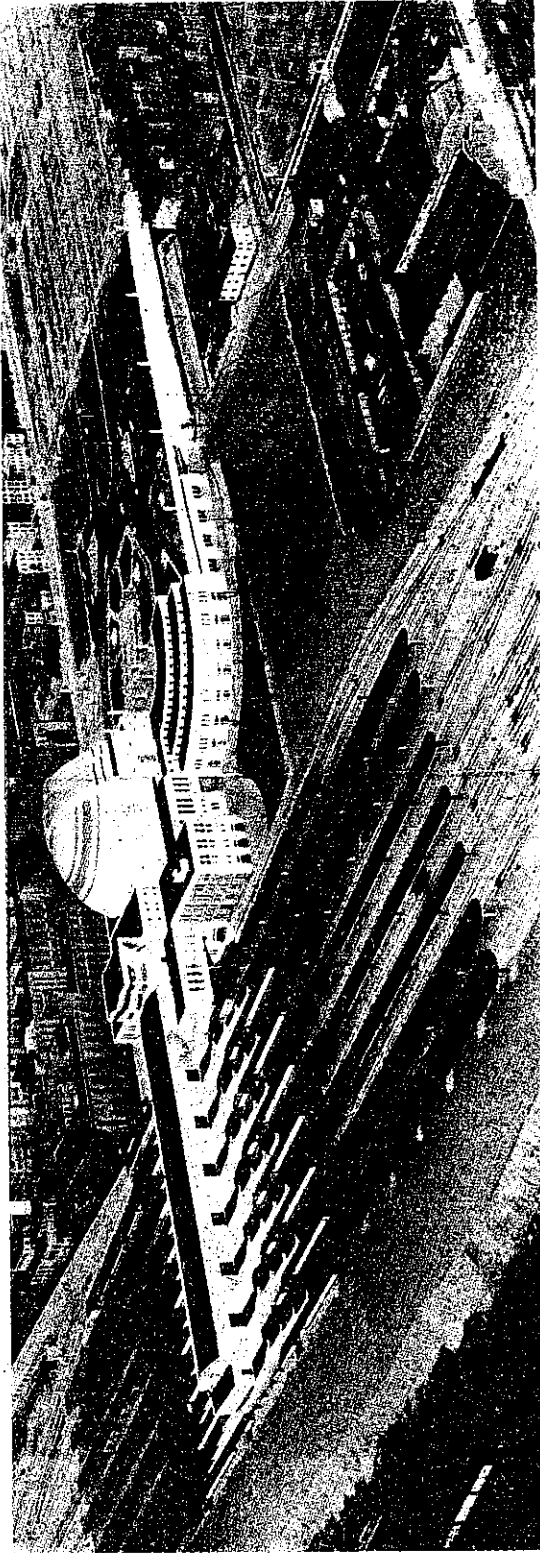


寫眞第三 新停車場の鳥瞰圖 (其一)

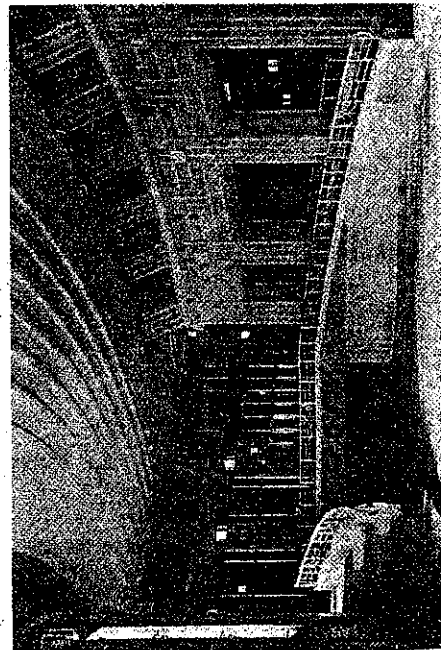


- | | | |
|--------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|
| ① 旅客驛 | ② 取付廣場 | ③ 郵便物扱所 |
| ④ 新郵便局 | ⑤ 小荷物扱所 | ⑥ 客車仕立場 |
| ⑦ 機關車 | ⑧ Western Hill 陸橋 | ⑨ Chesapeake & Ohio of Indiana 鐵道の連絡點 |
| ⑩ 新 Southern Yard | ⑪ 新 C. & O. of Indiana Yard | |
| ⑫ Baltimore & Ohio 鐵道の本線 | ⑬ Gest Street 地下道 | |
| ⑭ Bald Knob (盛土を採取せるどころ) | | |

寫眞第四 新停車場鳥瞰圖(其二)

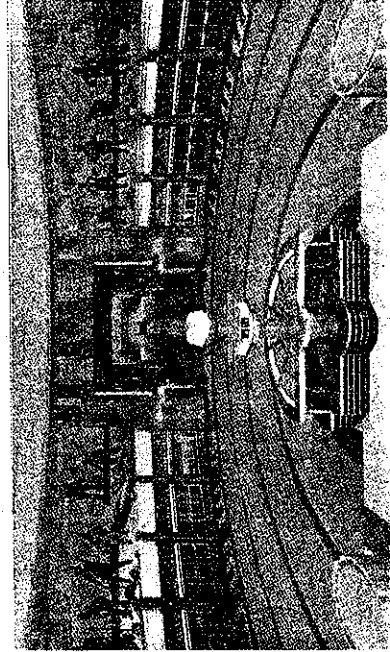


寫眞第五 北側タキシード・アークードに至る地下道



上は停車場入口、下は南側アークード

寫眞第六 大 展 間

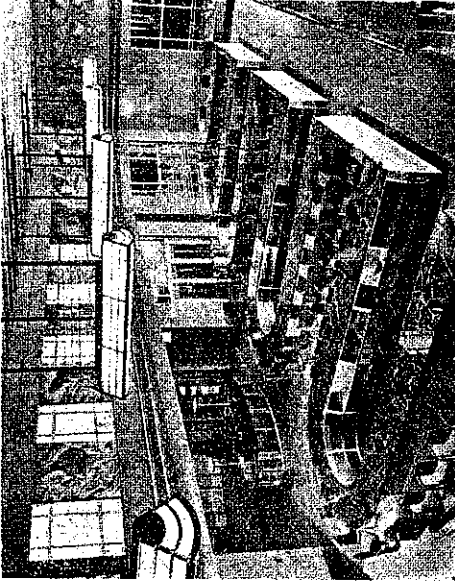


西方を望む

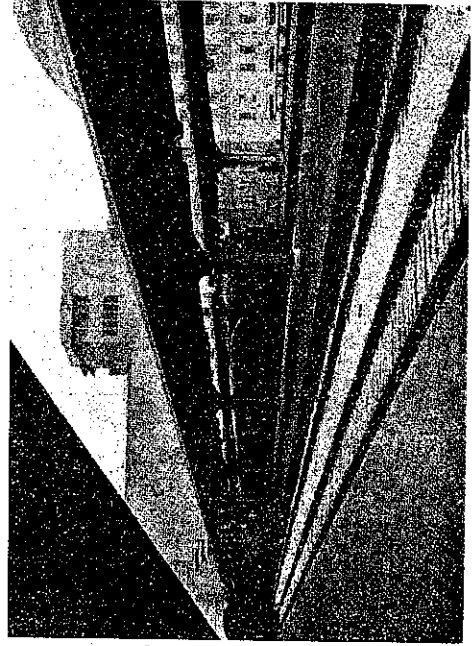
寫眞第七 手荷物廣間



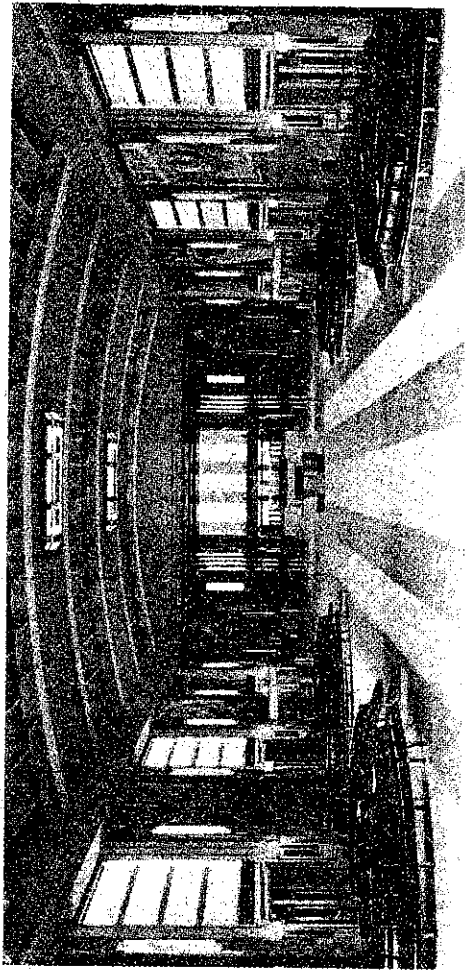
寫眞第九 ランチ室



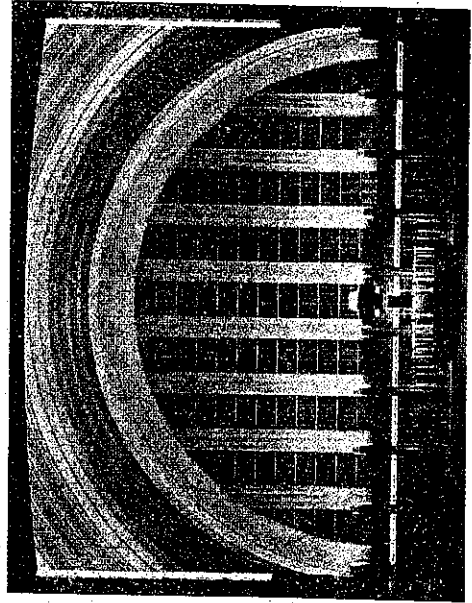
寫眞第十二 乗降場上家



寫眞第八 列車廣間



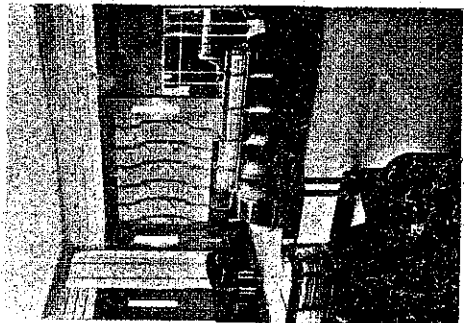
寫眞第十一 大廣間の夜景



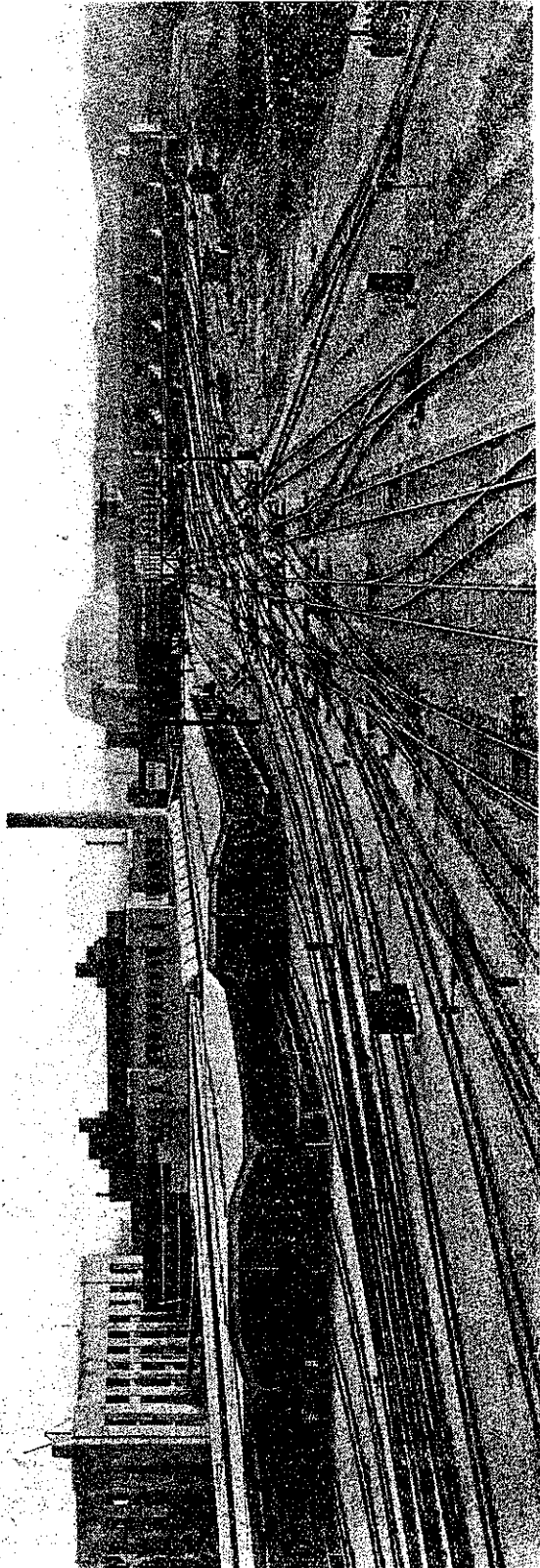
東側出入口を望む

東方大廣間を望む

寫眞第十 婦人待合室の一部

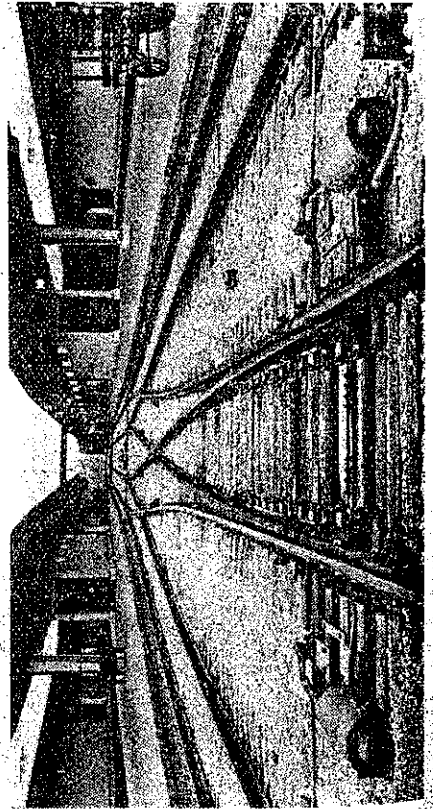


寫眞第十三 構内南方を望む

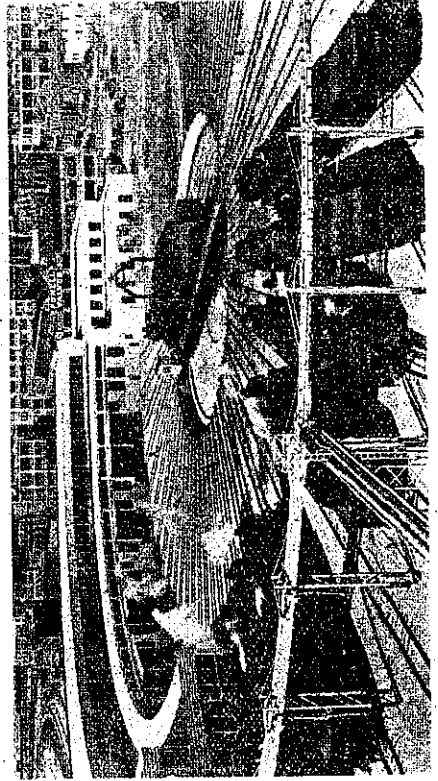


遠景に停車場, 左方に郵便物取扱所

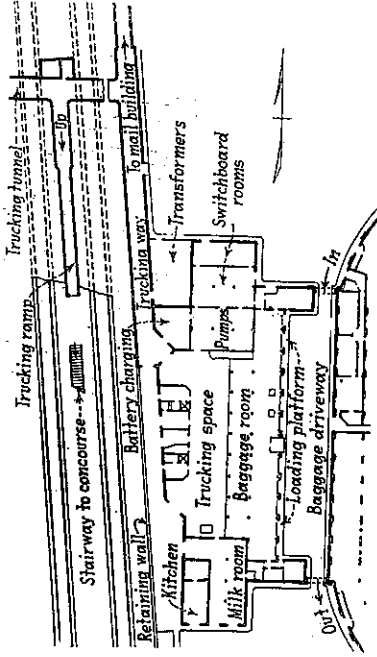
寫眞第十四 乗降場間の留置線



寫眞第十五 機關庫

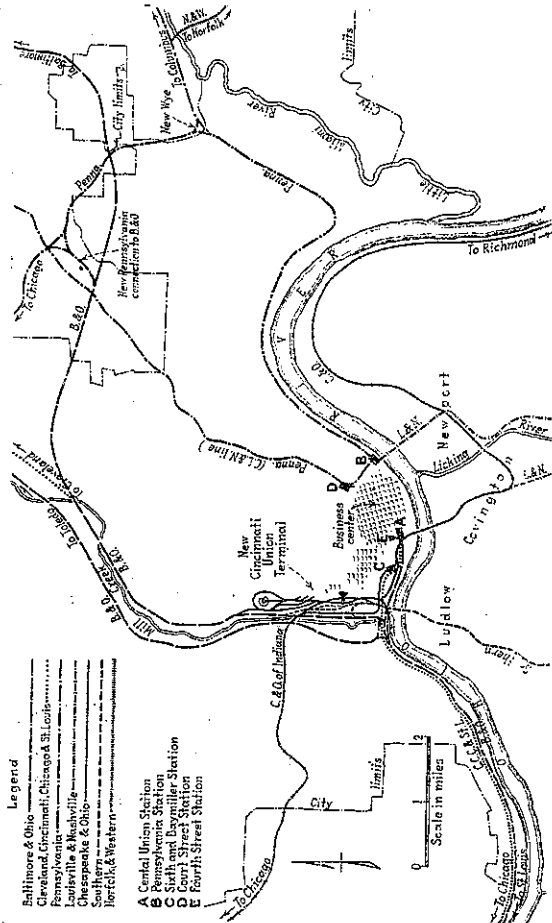


附圖第四 手荷物取扱所平面圖



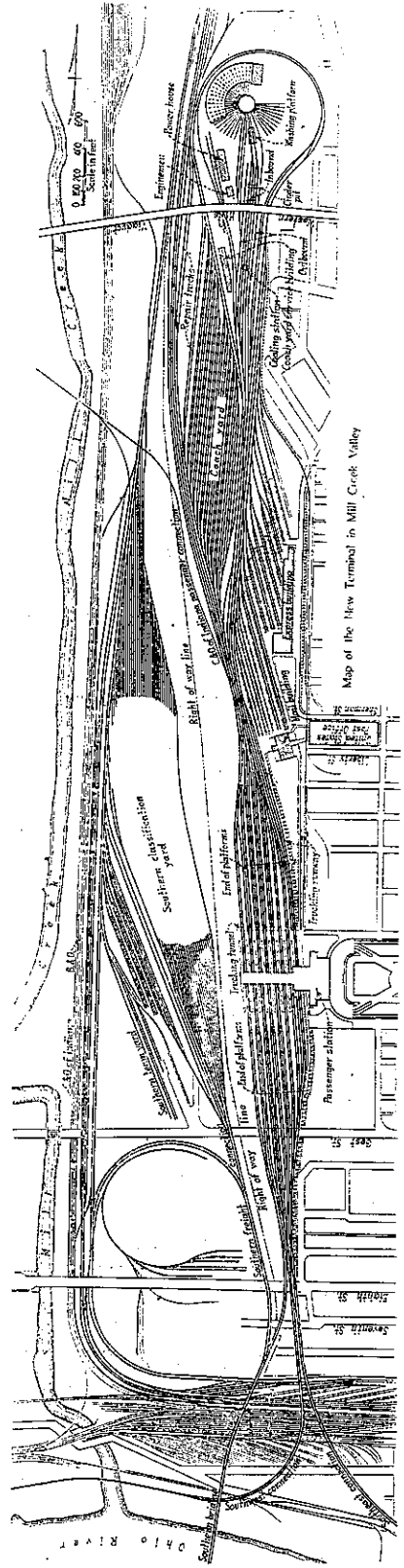
Baggage-Level Floor Plan Showing Trucking Route to Platforms

附圖第一 新舊停車場の位置

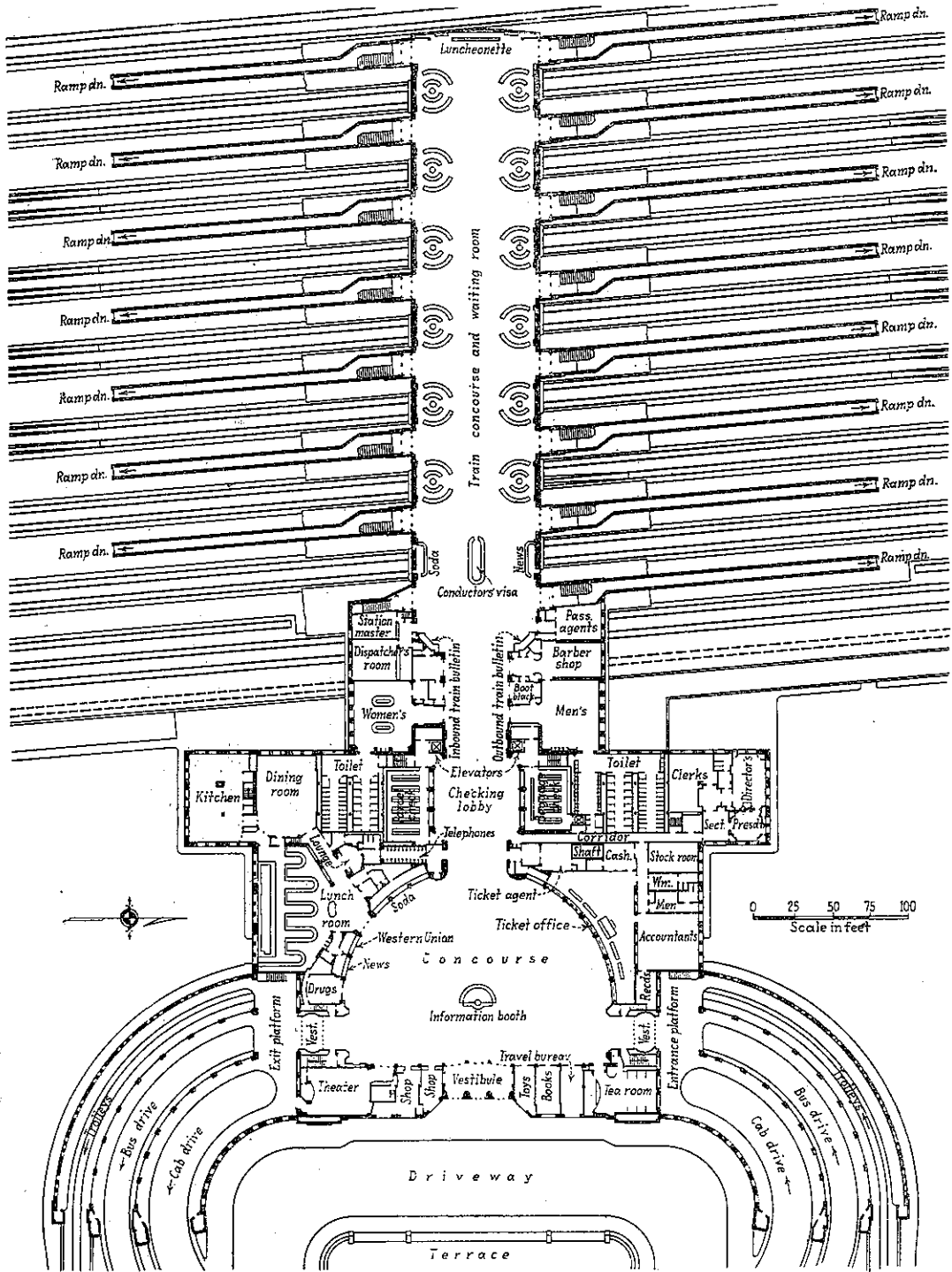


- Legend
- Baltimore & Ohio
 - Cleveland, Cincinnati, Chicago & St. Louis
 - Pennsylvania
 - Louisville & Nashville
 - Washington & Ohio
 - Southwestern
 - Baltimore & Western
 - Central Union Station
 - Pennsylvania Station
 - Sixth and Daymiller Station
 - Court Street Station
 - Fourth Street Station

附圖第二 新終端驛平面圖



附圖第三 新驛の本屋平面圖



Main Floor Plan of the New Station